



☆インフォメーション☆

映画試写会に行きました!

7/28 公開映画「君の臓腑を食べたい」
原作・住野よる

図書館司書限定で(株)東宝関西営業所にて開催!
映画会社の内部に入る貴重な経験でした☆

【作品介绍】

重い臓腑病を患う桜良と、彼女の病を知るクラスメートの「僕」との、はかなくも美しい高校時代が描かれている。映画では、原作にはない12年後の、僕が母校の教師になったところから物語が始まる。12年の時を越えて届く桜良からの想い…にご期待を☆

ただ今、映画原作本コーナーにて、
「君の臓腑を食べたい」
映画紹介の企画展示を展開中!

◆夏休み特別貸出◆

7/12(水)よりスタート

図書…8冊まで
雑誌…5冊まで
英語多読…3冊まで
貸出OK!

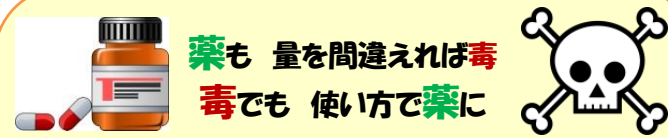


返却期限 9/7(土)

時事問題 7月の時事の欄
人工知能(AI)と未来社会

AI (artificial intelligence) とは、人工的にコンピュータ上で人間同様の知能を実現させる試み。例えば、自動運転車や自動翻訳・通訳とか、最も身近なAIでは、iPhoneの音声操作アプリ「Siri」がそうだ。2030年頃には汎用性 AI が普及すると言われている。消滅する職業も出てきます。
進路選択をする高校生には、見逃せない話題!

「人工知能と経済の未来 2030年雇用大崩壊」
井上智洋/文春新書、「人工知能は人間を超えるか」
松尾豊/KADOKAWA 他、展示中



薬も量を間違えれば毒
毒でも使い方薬に
図書館で根強い人気を誇る「毒」を主役に
脇役は、細菌・微生物・寄生虫
エピソードには、毒気を含んだ小説を集めました。

食中毒のシーズン、本の毒気にあたって
お腹を壊さないようご注意ください。

毒本の決定版! 毒マニアも大満足!



「毒の科学 毒と人間のかかわり」
船山信次/ナツメ社

薬や毒の知識は、文明が発展していくにつれ権力者が政治的な道具として利用した。第一章では、世界各地の毒の歴史が写真で紹介され面白い。中世ヨーロッパでは超自然的な力が宿ると信じられ、魔法や悪魔と結びついたオカルト的なエピソードが豊富。マンドレイクや「賢者の石」の秘密も分かります。ローマ時代からある毒による暗殺の例、世界中の猛威を振るったペストやコレラなどの病原菌がのちに化学療法の発展につながったなど、真面目な話までたっぷり。

いつも飲む薬、効く仕組みが分かった!
「薬は体に何をするか あの薬が効くしくみ」



矢沢サイエンスオフィス/技術評論社
ステロイド剤、頭痛薬、抗生物質、アレルギー治療薬など、身近な薬を取り上げ、薬はどうやって脳や心臓、血液、神経に作用するのかエピソードを交えて紹介。化学式や高校生物用語はあまり登場しないので、中学生でも雑学系読み物として楽しめます。「抗生物質って何なん?」と思っ

ただ、カビや微生物の生産物であり、かつ自分以外の微生物に対して対抗する力を持つらしい。多くは、土の中で生きている細菌から発見されるという。

憧れと劣等感の間に揺れる 女子高生のリアル



「終点の女の子」 柚木麻子/文藝春秋
ミッション系女子高が舞台の連作短編。有名な写真家を父に持つ朱里は、ストレートな物言いと個性が魅力だが、時に周囲をいら立たせた。級友の希代子は、彼女に憧れて友達になったにもか

かわらず、身勝手な理由から彼女を懲らしめようと計画する。誰でも経験のある後ろ暗い心理が丹念に描写され、読者の心をひりつかせる。友達との距離感に悩んだり、ある出来事で他人に対する態度を一変させたり、実は友だちを見下していたり…。しかし読後は重くない。反省と後悔で成長した彼女たちを見届けられるから。(以上 千葉)



え!? 知らなかったではすみません。
「身近にある毒植物たち」森昭彦/
SBクリエイティブ

よく目にし、手に取り、時には食する植物の中に「毒植物」といわれるものがあるらしい。詳しくは本書閲覧。例えば…アスパラガス(食用が平気な人でも収穫時に酷いアレルギー症状が出る)、梅シロップ等に使う青梅(生は不可。加工することによって安全)等々。聞き慣れた植物が挙げられていて、内容を読んでその毒性に冷や汗がたたり。野山や公園などでむやみに触るべからず。



もしかして「薬」が関わっていた!?
「薬で読み解く江戸の事件史」
山崎光夫/東洋経済新報社

歴史を勉強している時に、「これからってタイミングで急死!?」など疑問に感じたことはないだろうか?本書は「薬」をキーワードに江戸時代の歴史や人物像を解明する。「家康は自ら調剤し、当時では信じ難い長寿だった。」「幕末の歴史を変えた島津斉彬怪死の謎」「天然痘から急死へ。孝明天皇の容態書を読み解く」など。いかに歴史の背後で薬が関与していたかが分かる。徳川將軍家の秘薬「紫雪」は、財力を背景に加賀藩が製造。分家の富山藩が展開した配置売薬が後の「富山の置き薬」に繋がっていたとは驚き!

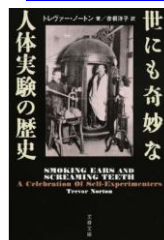


どうしようもないのか? 母と娘。
「あのひとは蜘蛛を潰せない」
彩瀬まる/新潮文庫

28歳の梨枝は、母親から「みっともない女になるな。」「この世にお母さん以上にあなたのことを考えてる人間なんていないんだから!」と言われ続け母親の呪縛から逃れられない。しかし、自分だけでなく、他人も、人との距離感に悩み苦しんでいることに気付いていく。登場人物各々の心情描写も上手く、一つ一つに共感できて心に刺さる。梨枝は母親から本当の自立はできるの

か?なぜこのタイトルにしたのか?読んでみて下さい。(以上 田中)

人類の危機を救った偉大な科学者たちは実は…?
「世にも奇妙な人体実験の歴史」トヴァーノ(著)、
赤根洋子(訳)/文春文庫



日本にも母と妻を実験台にして麻酔薬を完成させた華岡青洲という医者がいますが、いつの世にも人類を救う偉大な発明の陰には己の身を犠牲にする偉大な科学者がいた!梅毒患者の膿を「自分」に塗布、コレラ菌入りの水を飲み干す、カテーテルを自らの心臓に通す。その勇気と無茶さに抱腹絶倒するうち、彼らの真の科学精神に目を開かれます。



わかっちゃうけどやめられない…
「脳内麻薬 人間を支配する快楽物質
ドーパミンの正体」中野 信子/幻冬舎
新書

ギャブル、アルコール、オライオン-H etc…。人間はなぜ、これらをやめることができないのか? それは「脳内麻薬」であるドーパミンが中脳から放出され、「快感」を司る脳の各部位を巧みに刺激しているから。だがこのドーパミンは他人に褒められたり、難易度の高い目標を達成するなど、「真っ当な喜び」を感じる時にも大量に放出されているらしい。人間の脳の不思議なメカニズムについて、話題の美人脳科学者がわかりやすく説明してくれています。



ラスト1行の衝撃リバーズ(とんでん返し)!!
「リバーズ」湊かなえ/講談社文庫

作者が初めて編集者からあるお題を与えられて書いた作品。どんなお題か話せばすべてがネタバレにつながってしまうのでここでは控えませんが、つい先日藤原竜也さん主演でドラマ化されていたので記憶に新しい方も多いはず。もしドラマを見ていないならば是非、見た方も今度は本で、あっと驚くリバーズを味わって欲しい。ラスト1行まで一気読み必死のジェットコースターのような快感を味わってしまったら、イヤミスの女王の虜になってしまうこと間違いなし!! (以上 梅谷)

評論:この人に注目「斎藤環」

1961年生。精神科医。筑波大学教授。引きこもり問題の専門家。仏哲学者ラカンの解説書が高く評価されている。オタク文化の研究者でもある。「承認をめぐる病」、「生き延びるためのラカン」、「ひきこもりはなぜ「治る」のか?」他、展示中。

